令和5年度

地域消費者アンケート結果

くろかわ商工会

くろかわ商工会　地域消費者アンケート

（１）調査目的

本調査は割増商品券がもたらす経済効果や購買活動における消費者マインド等について調査を行い公開する事で、管内事業者がマーケットインの視点にたった経営を検討する機会となるべく実施。

なお、本調査の実施にあたっては、割増商品券事業参加店の協力の基、商品券利用者を対象に調査を実施した。

（２）調査対象地域

大和町・大衡村

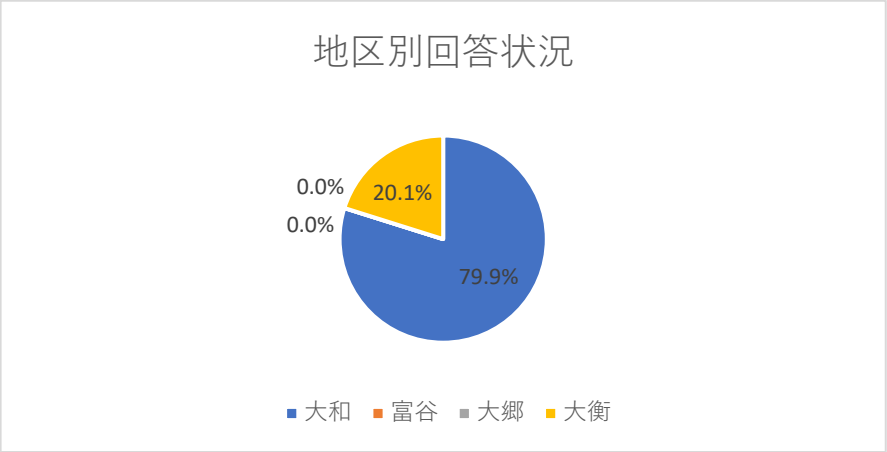
（３）調査方法

割増商品券参加事業所において、商品券利用者を対象にアンケート調査票による定量調査により実施。

購入者基本情報１

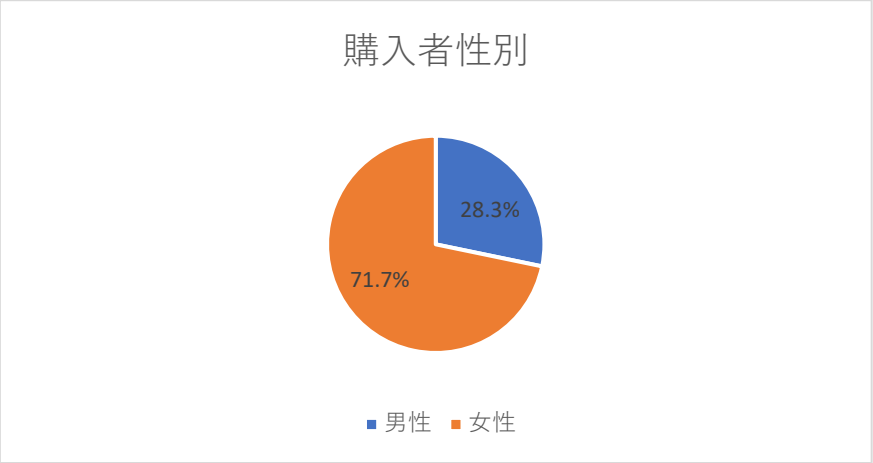
■地区別回答者数について

市町村別回答状況		
市町村名	回答数	回答率
大和	218	79.9%
富谷	0	0.0%
大郷	0	0.0%
大衡	55	20.1%
合計	273	100%

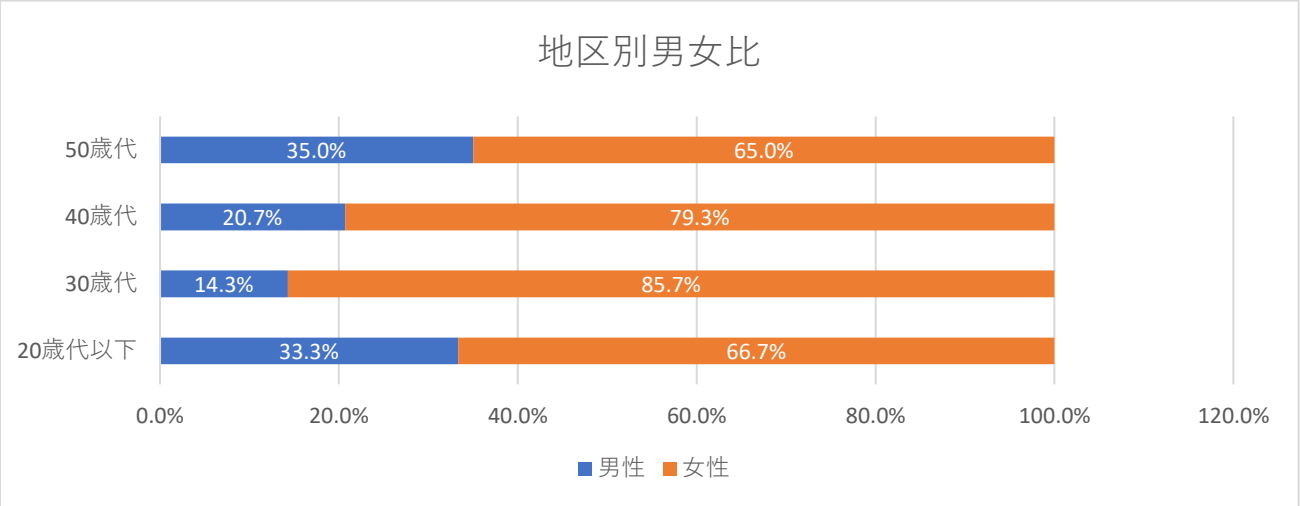


（１）①購入者の性別について

購入者性別		
性別	回答数	回答率
男性	76	28.3%
女性	193	71.7%
合計	269	100%



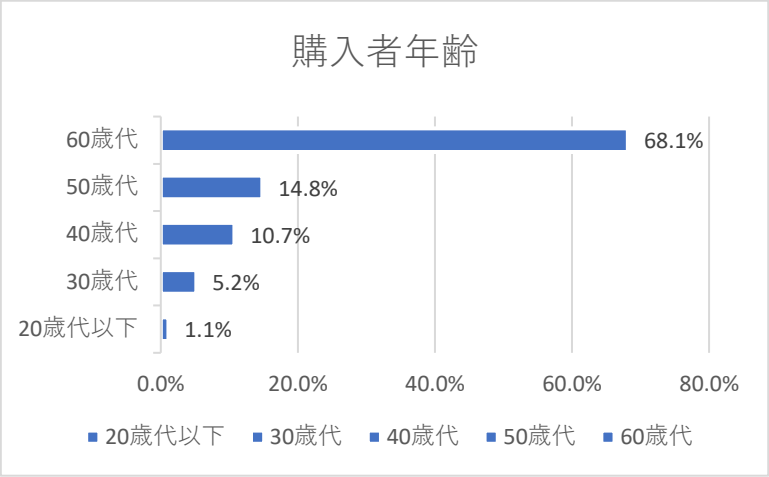
（参考）購入者年代別男女比



購入者基本情報２

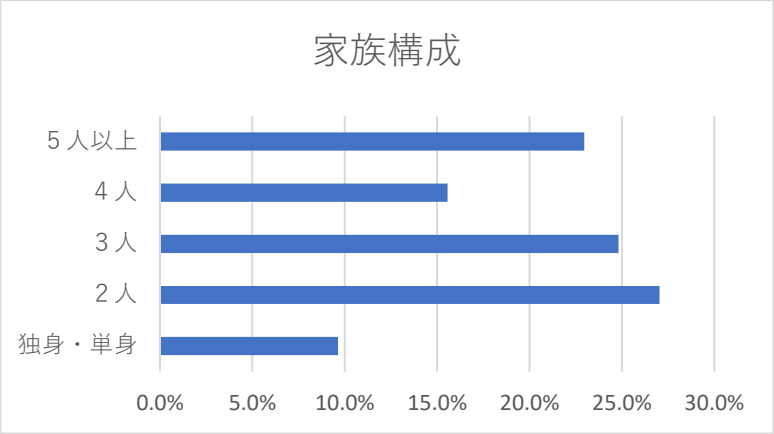
（１）②商品券購入者の年齢について

購入者年齢		
年齢	回答数	回答率
20歳代以下	3	1.1%
30歳代	14	5.2%
40歳代	29	10.7%
50歳代	40	14.8%
60歳代	184	68.1%
合計	270	100%

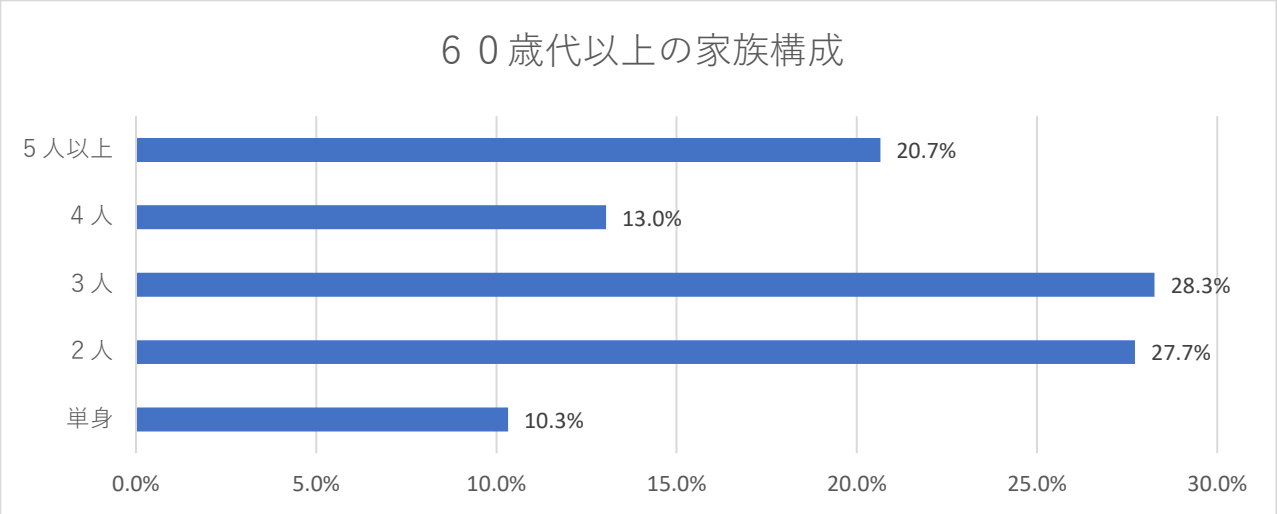


（２）商品券購入者の家族構成について

家族構成		
	回答数	回答率
独身・単身	26	9.6%
２人	73	27.0%
３人	67	24.8%
４人	42	15.6%
５人以上	62	23.0%
合計	270	100%

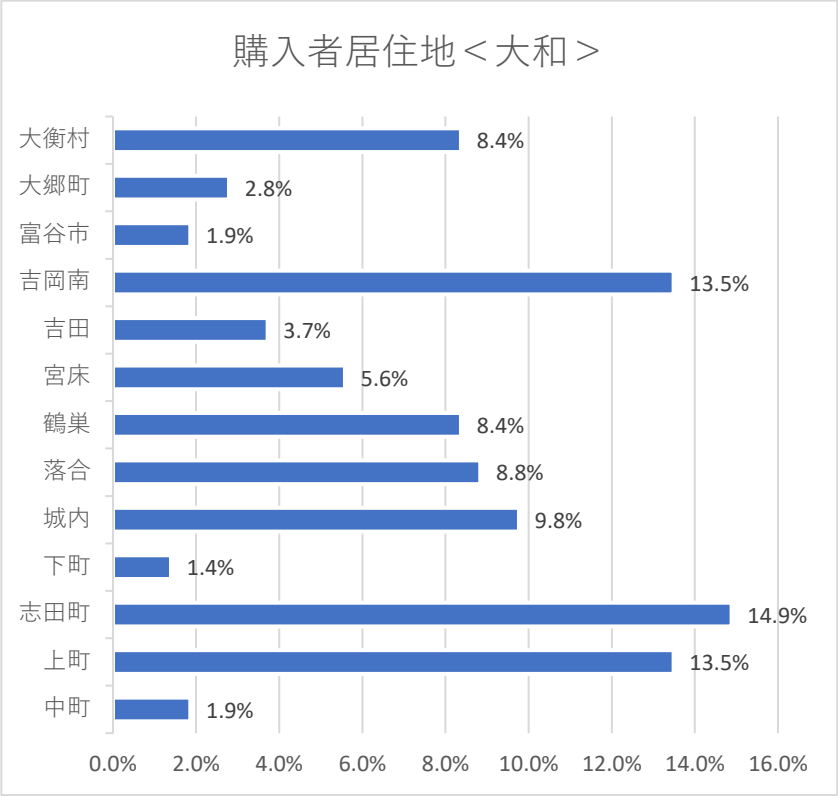


（参考）商品券を購入した年代が最も多かった「60歳代」以上の家族構成



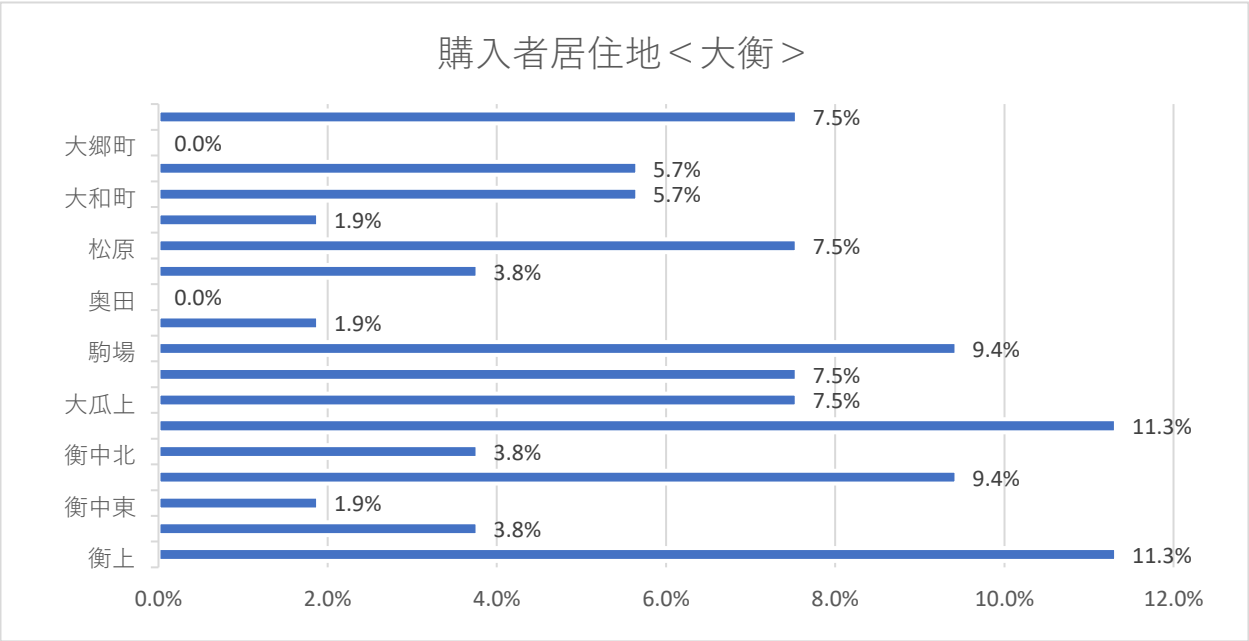
（５）-①購入者居住地（大和町）

居住地（大和）		
地域	回答数	回答率
中町	4	1.9%
上町	29	13.5%
志田町	32	14.9%
下町	3	1.4%
城内	21	9.8%
落合	19	8.8%
鶴巣	18	8.4%
宮床	12	5.6%
吉田	8	3.7%
吉岡南	29	13.5%
富谷市	4	1.9%
大郷町	6	2.8%
大衡村	18	8.4%
その他	12	5.6%
合計	215	100%



（５）-②購入者居住地（大衡村）

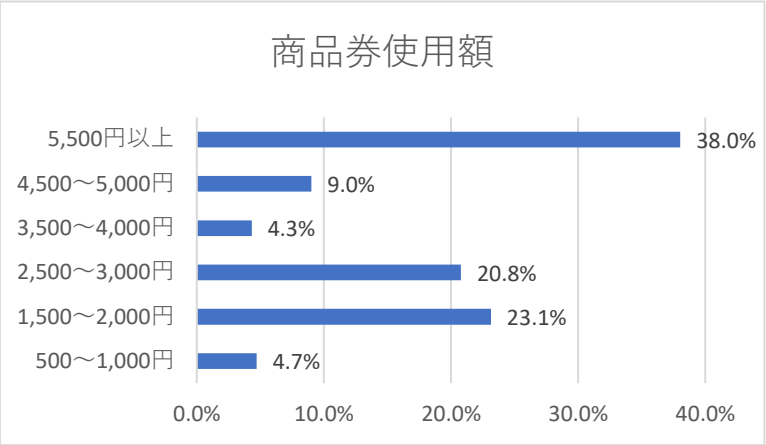
居住地（大衡）		
地域	回答数	回答率
衡上	6	11.3%
衡中	2	3.8%
衡中東	1	1.9%
ときわ台	5	9.4%
衡中北	2	3.8%
衡下	6	11.3%
大瓜上	4	7.5%
大瓜下	4	7.5%
駒場	5	9.4%
大森	1	1.9%
奥田	0	0.0%
蕨崎	2	3.8%
松原	4	7.5%
衡東	1	1.9%
大和町	3	5.7%
富谷市	3	5.7%
大郷町	0	0.0%
その他	4	7.5%
合計	53	100%



商品券の使用状況１

（４）買物１回当りの商品券使用金額について

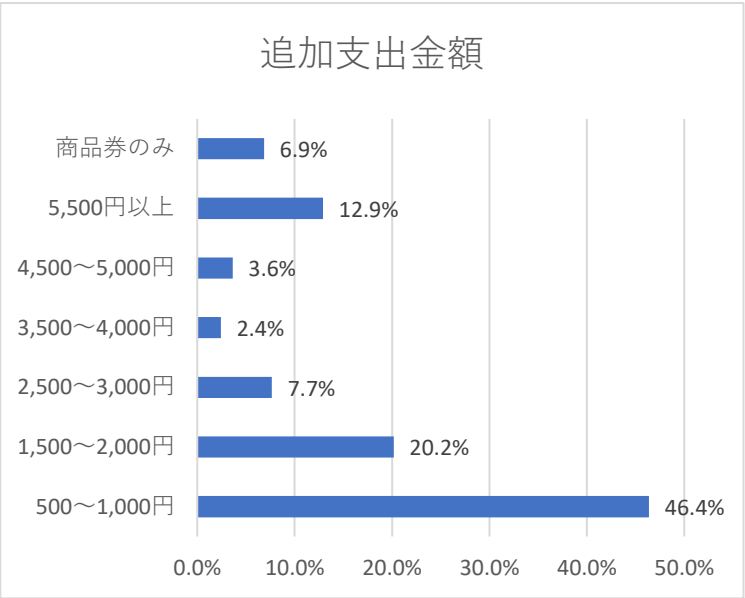
1回当りの商品券使用金額		
金額	回答数	回答率
500～1,000円	12	4.7%
1,500～2,000円	59	23.1%
2,500～3,000円	53	20.8%
3,500～4,000円	11	4.3%
4,500～5,000円	23	9.0%
5,500円以上	97	38.0%
合計	255	100%



１回の買物で使用される商品券の額は、「5,500円以上」が38%と最も多い割合となっており、次いで「1,500～2,000円」が23.1%、「2,500～3,000円」がそれぞれ20.8%という結果になった。なお、「5,500円以上」以上と回答した消費者群の主な利用先として多く回答されていたのは「食料品小売店」であり、昨年度の「理美容」への支出から変化があった。

（５）商品券使用時の現金追加支出について

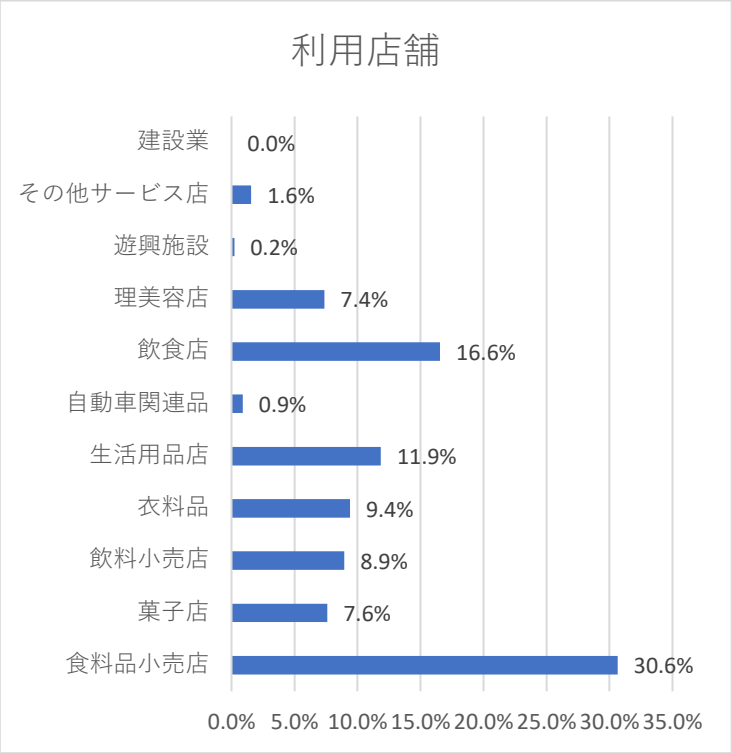
追加支出金額		
金額	回答数	回答率
500～1,000円	115	46.4%
1,500～2,000円	50	20.2%
2,500～3,000円	19	7.7%
3,500～4,000円	6	2.4%
4,500～5,000円	9	3.6%
5,500円以上	32	12.9%
商品券のみ	17	6.9%
合計	248	100.0%



商品券の使用時に追加支出された金額で最も多かったのは、「500～1,000円」が46.4%で次いで「1,500～2,000円」が20.2%であった。
昨年度は「2,500～3,000円」が17.3%だったことを考えると、現金による消費喚起は物価高の影響もあり、抑制されたことが考えられる。
なお、「500～1,000円」以上と回答した消費者群の主な利用先として多く回答されていたのは「食料品小売店」であり、昨年度と同様の結果となった。

（６）商品券等の利用店舗

利用店舗（複数回答）		
購入品目	回答数	回答率
食料品小売店	137	30.6%
菓子店	34	7.6%
飲料小売店	40	8.9%
衣料品	42	9.4%
生活用品店	53	11.9%
自動車関連品	4	0.9%
飲食店	74	16.6%
理美容店	33	7.4%
遊興施設	1	0.2%
その他サービス店	7	1.6%
建設業	0	0.0%
その他	22	4.9%
合計	447	100%



商品券の使用先として最も多かったのは、「食料品等」を取扱う店舗で30.6%となっており、「飲食店」が16.6%、「生活用品」が11.9%と続いた。衣食住のなかでも、「食（品）」に使用された割合が多く、「食料品」、「酒・清涼飲料水等」、「飲食」で約63%と半数以上を占める結果となった。

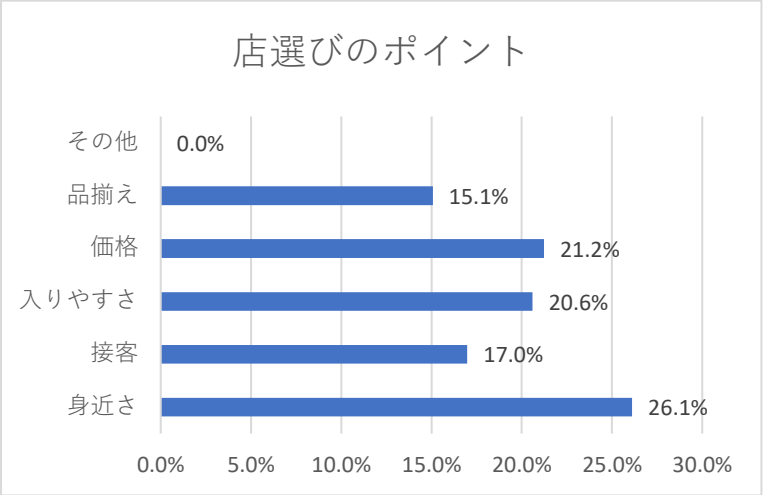
「飲食店」での利用については、昨年度から約2ポイントアップしており、新型コロナウイルス感染症の位置づけが変わったことにより、外食需要が回復してきたことが考えられる。

一方で、ガスや灯油などの燃料購入に使用した回答もあり、エネルギー価格の高騰が生活に及ぼす影響度合いが読み取れる。

購買活動の状況

（7）普段の買物における店選びのポイントについて

店選びのポイント（複数回答）		
項目	回答数	回答率
身近さ	123	26.1%
接客	80	17.0%
入りやすさ	97	20.6%
価格	100	21.2%
品揃え	71	15.1%
その他	0	0.0%
合計	471	100%

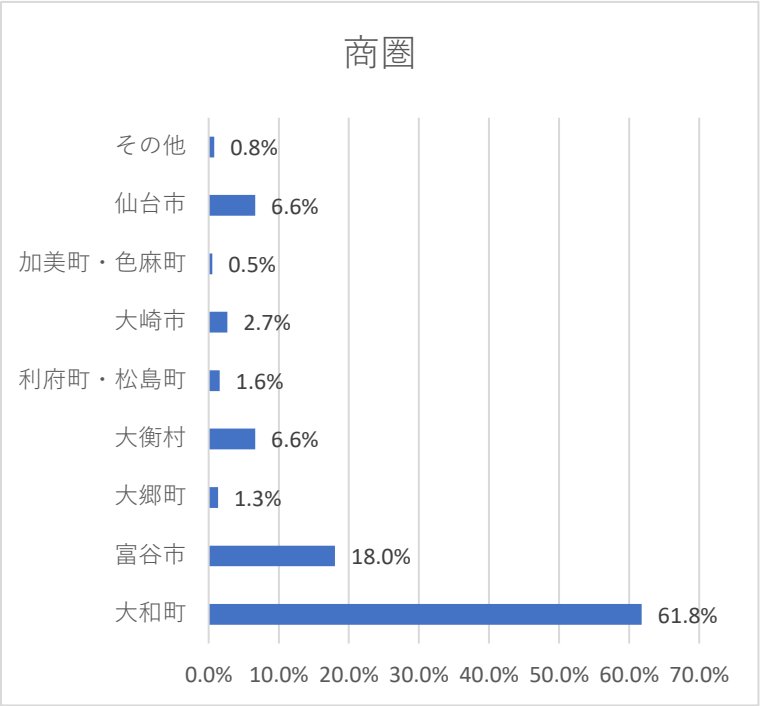


店選びのポイントについては「身近さ」が26.1%と最も多く、次いで「価格」が21.2%、「入りやすさ」が20.6%ととなった。

昨年度の調査と比較すると、「価格」と「入りやすさ」の順位が入れ替わっており、価格高騰が及ぼす影響度合いの大きさが見え始めている。

（8）買物をするエリアについて

商圏（複数回答）		
エリア	回答数	回答率
大和町	233	61.8%
富谷市	68	18.0%
大郷町	5	1.3%
大衡村	25	6.6%
利府町・松島町	6	1.6%
大崎市	10	2.7%
加美町・色麻町	2	0.5%
仙台市	25	6.6%
その他	3	0.8%
合計	377	100%



個別の状況は次の通りとなった。
大和：大和町67%、富谷市18%、仙台市6%
大衡：大和町43%、大衡村22%、富谷市17%